

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子羽沢保育園
施設所在地	東京都練馬区羽沢2-20-20
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

乳児クラスは音の鳴る玩具や音に関する絵本を好きな子が多く、幼児クラスは体操で音楽に乗り踊るのが好きな子が多い。また、お楽しみ会(発表会)などで楽器演奏をするクラスも多かったり、園にあるマラカスやカスタネットを使って日常的にも楽器遊びを毎年楽しむ姿がある。また、絵本献立に関する活動も毎月行う中で、簡易的な音楽会のようなものをするこもあった。このように、日頃より音楽などの音に触れることを楽しむ姿があり、音楽以外の生活や遊びの中でより様々な音に触れることで興味や不思議に思う気持ちを大切に、聴く・真似る・表現する魅力を感じて欲しいため。また、音を楽しむ活動は言葉の獲得や人との関わり、自己表現にも繋がっていくと考えたため。

2. 活動スケジュール

<p>【絵本から影響を受けて、音への興味が広がる】</p> <p>6月～7月</p> <p>・巡回絵本のテーマが音。そのテーマの本を読むうちに、子どもたちが音に興味を持つようになった。保育士もオノマトベを積極的に取り入れるようになり、日常的に擬音やオノマトベを会話に取り入れていく。またそれらを引き出すような遊びの展開、感触遊び、音探しなど子どもたちの興味に合わせて音の遊びを展開する。</p> <p>【オノマトベ遊びを展開する】</p> <p>7月後半～8月</p> <p>乳児クラス…「できるかな？」の歌絵本に合わせて動物になりきる。「どしんどしん」「バンバンバン」など動物の動きに合わせた音の表現を体を使って楽しみながら体の動かし方、表現の仕方を覚える。保育者が用意したベレー帽、マイクを身に着けステージで歌いアイドルごっこが広がっていく。</p> <p>幼児クラス…じゃんけん列車やロンドン橋など集団遊びで音に合わせて体の強弱や速度を合わせる遊びを楽しみ、夏祭りに向けて「盆踊りをしたい」「どの曲がいい？」と自分たちで会議をして決める。→夏祭りの日に全園児で盆踊りを楽しむ。</p> <p>【演奏遊び・リトミックをはじめる】</p> <p>9月～10月</p> <p>手遊び歌や季節の歌を積極的に取り入れる。乳児クラスでは手作りの楽器玩具を通して指先の発達を促しながら、身近なものから出る音や力加減を学んでいく。また、それらを使ってクラスの仲間と演奏遊びをする。(太鼓、カスタネット、マラカスなど)→後日一歳児クラスでは子のマラカスを使っての遊びが発展し、乳児の発表会で歌と楽器演奏を披露した。絵本の中に出てくる擬音に興味を持ち(キラキラ、どっかーん、ぱぱーんなど)製作にも広がる。</p> <p>幼児クラス…運動会に向けて子どもたちの会議の元に決まった競技(ダンスやバラバールン)の練習で力の強弱や動く速度などを声に出したり、友だちと息を合わせていく。また、保育者のピアノの音に合わせて飛ぶ、止まるなどしながら大縄を飛ぶための最初のステップとしてリトミックを楽しんだ。</p>
<p>10月末～11月中旬</p> <p>乳児クラス(2歳)…楽器遊びを行い園内にある楽器(タンバリン、マラカス、カスタネット、鈴、ウッドブロック)に触れる。本物の楽器に触れるのは初めての経験で子どもたちの好きな「おもちゃのチャチャチャ」「幸せなら手を叩こう」などに合わせて楽器演奏を楽しむ。</p> <p>【講師と一緒にハロウィンパーティーを実施する】</p> <p>全園児…10月31日のハロウィンでは日頃から子どもたちに音楽を届ける活動をしている方をお招きして、ハロウィンミュージックパーティーとして機材を使用した音楽の演奏をしてもらう。耳で聞くだけでなく体を使って自由に踊ったり大人数で音を感じて楽しむ経験になった。楽器以外でも音が鳴らせることを知る。</p> <p>【保護者の協力で沖縄フェスを開催】</p> <p>保護者に沖縄のカチャーシーができる人がいたり、DJができたり、楽器が演奏できる保護者がいた。保護者に協力を依頼して、今年は沖縄をテーマにして発表会を企画。</p> <p>11月に入り郷土料理「沖縄」「HITOWAの日」に絡めて、沖縄フェスにむけて活動が始まる。沖縄に行ったことがある子が多かったため自然と沖縄の事を話すようになり、製作にも広がった。廊下には琉球音階が体験できるコーナーを設置し、ピアノに実際に触れて弾いて楽しむ。</p> <p>11月21日…楽器演奏のできる保護者の方々に協力いただき、園内で生演奏をしてもらう。(曲目は沖縄民謡、子どもたちの好きな童謡など)大人が演奏する姿を見て楽器に興味を持ったり、知っている曲で踊ったりして音に触れて楽しむ。</p> <p>【栄養士タイアップの音イベント】</p> <p>12月</p> <p>2～5歳児…栄養士と協力し、絵本献立「おいしいおと」に関連した「おいしい音クイズ」を開催。食べる音、食材を切る音などを聞き、最後に実演としてポップコーンのはじける音を聞く。</p>

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・音、オノマトペ、歌、楽器などがテーマの絵本の購入。
- ・廃材を使った楽器遊びのため、ガムテープ芯やビニールテープ、ペットボトルなどの用意。
- ・「音」がテーマの巡回絵本の読み合いの機会を設ける。子どもたちの目の届く場所に置く。
- ・園内にある楽器を用意、触れられる環境づくり
- ・廊下でのシアター鑑賞
- ・ゲスト、保護者を招待しての音楽パーティー（計2回）
- ・おいしいおとクイズに向けてポップコーンの種の購入
- ・蓋つきの深めフライパンの購入

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【絵本から影響を受けて、音への興味が広がる】

・届いた巡回絵本が「音」をテーマにしたもので、子どもたちが興味を示していった。そこで保育者が遊びに展開していきさらにオノマトベや音の活動が豊かになっていく。
・子どもたちが日常でよく耳にする音やオノマトベが題材とされた絵本の読み合いから、遊びの中で保育者が行う声掛けの際に意識して音を言葉に出すようにしたことで、子ども達からも「びりびり」「ふわふわ」「びかびか」などのオノマトベが増えていった。

【オノマトベ遊びを展開する】

・換気の時や雨が降りそうな時など意識的に外の音に耳を澄ませると「風の音」「雷の音」「工事中の音」などに気づき始めた。→涼しくなり戸外活動が始まる頃に、探索を楽しみながらできる「おさんぽ音ビンゴ」を計画。休日や降園後の家族との時間でも「音」に耳を向けて楽しめるよう計画する。

【演奏遊び・リトミックをはじめる】

・歌やダンスの好きな子どもが乳児幼児問わずに多いためマイクや衣装を用意したりすることで更に活動が広がっていった。そこから歌うだけでなく演奏する方にも目を向け、簡単な手作り楽器を用意し演奏遊びを楽しんだ後、実際の楽器に触れて音の違いを楽しむ。→廃材を使ってオリジナルの楽器作りからの演奏や発表を楽しむ。幼児クラスはピアノ、ハンドベルに挑戦し発表会で披露することに決めた。
・音と体を動かすをリンクさせ、リトミックのような活動を行う。音の大きさや高さに合わせてゆっくりジャンプや素早く足を動かすなど体を自分の意思で動かす。→苦手としていた大縄跳びに挑戦。音に合わせて飛ぶことで大縄が飛べるようになる。

【講師と一緒にハロウィンパーティーを実施する】&【保護者の協力で沖縄フェスを開催】

・大人の演奏を聴いて普段目にする事の少ない楽器や機材に興味を持ったり、音楽に合わせて自由に体を動かす、手作り楽器を演奏するなど様々なことに楽しむ。
・特技を持った保護者やその保護者からのアイデアを汲み取り実現させること、外部との繋がりを活かすなど、保育者だけでは実現できなかったことを今回の研究から生まれた活動により、さらに子どもたちの探求心が深まる。

【栄養士タイアップの音イベント】

・園内の人材を見直し、栄養士との協力のもと、もともと行っていた絵本献立にも絡めて活動に展開していった。
・普段意識していなかった調理中の音や咀嚼音などにも注目するようになり友だち同士で咀嚼音を聞いたり、聞こえた音を言語化して表すなどする姿が増えた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・お気に入りの絵本や歌を繰り返し読む、歌うことで、子どもから絵本や歌に出てきた擬音やオノマトベが聞こえてくるようになり、実際の生活の中で絵本の内容とリンクすることがあった時に声に出して認識する姿があった。
・踊るのが好きな子どもが多く、保育者に「〇〇踊りたい!」など曲をリクエストする。
・担任だけでなくフリーの保育士やリーダー保育士、主任や看護師、園全体で活動に参加し、共に楽しむことで活動を継続、発展できた。
・特に幼児クラスでは子ども同士が誘い合って踊ったり、自分の知識を教え合ったりする姿も見られた。
・いろいろな音楽や楽器などに触れたことで、自分たちの発表会でも楽器の演奏をしたいという姿があった。
・普段関わりの少ない保護者やゲストの大人の演奏を聞いて興味を持ち、盛り上がりを見せ、後日もその時の話を保育者に話していたり、その際に聞いた曲を聞きたいとリクエストしたり、口ずさんだりする姿があった。
・食べている音や調理の音を聞き、友だち同士で咀嚼音を聞き合う姿や、連絡帳などで家庭でも調理中の音や家族が食べている音に興味を持っていたと保護者から聞いた。
・普段の関りの中では知りえなかった保護者の出身にまつわる話や特技などを知り、保護者との新たな繋がりが生まれ、関係を深めることができた。子ども達も保護者の新たな一面に驚き、また音の楽しさを共有している喜びを感じていたことで、さらに子どもたちの中で音に関する楽しさや探求心を広げる要素となり、活動自体をより深めることが出来た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

元々音に関する活動は毎年何らかの形で行っていましたが、いつもは主に2歳児より上のクラスが活動として楽しんでいました。内容としては廃材を使った楽器作りやピアノ演奏、ダンスが活動として多かったのですが、今年は巡回絵本をきっかけに、0歳児1歳児クラスも音に興味を持ち、深く音に関する活動に関わり、さらに楽しさを発見！広げていく姿が見られました。また、手作り楽器玩具を楽しみ乳児クラスの子どもたちを見て、音を楽しむことから指先の発達に繋がったり、今まで目を向けていなかった様々な音に対しても新しい気づきを得たように感じました。また、興味を捨て絵本を増やしたり、子どもたちが自由に使える廃材の充実、それにより幼児クラスでは製作コーナーの設置や見直しなどを行っていきました。ステップを踏んで活動を進めていったことで以前よりも子どもが主体となりつつも、活動が継続的に広がっていきました。年度初めに行った保護者のアンケートから行事などに保護者が協力的な姿が見られ、一緒に何かを実現したい！という思いから子どもと保護者と職員が繋がる行事を企画し始めました。それから園全体で保護者に楽器を演奏できる方がいるか声を掛けると想像以上に協力して頂ける方が集まり、栄養士にも相談し郷土料理の日と合わせて「沖縄月間」にしようと決めました。計画を立てたり、全体のスタッフと共有したり、保育リーダーや主任などもアイデアを出し合ったりしたことで、幼児クラスだけでなく乳児クラスでも約一年間を通して音に関する活動を続けられ、園としても初めての取り組み（保護者主体の楽器演奏である沖縄フェス・ハロウィン音楽パーティー）に挑戦できました。子どもだけでなく保護者も一緒になって楽しむ、活動に参加するということが実現でき、年間を通して、また、全学年での音の活動が充実した年となりました。初めての行事の実現を達成し、子どもたちにも珍しい体験を届けられたのではないかと思います。来年度も、保護者の意外な一面や特技を知り、保護者とつながる機会を設けたり、地域の老人ホームや近隣の保育園との交流など、地域資源の活用ができるよう、スタッフとも話し合い実行していきたいです。そしてこれから先の子ども達の未来に繋がるきっかけにしていきたいです。